

青森市地域公共交通網形成計画〈概要版〉

策定の
目的

コンパクトなまちづくりと地域公共交通の連携によって、「コンパクト・プラス・ネットワーク」のまちづくりを進める上で、地域にとって望ましい公共交通の姿を明らかにするマスタープランとして策定する。

位置づけ

・「地域公共交通の活性化及び再生に関する法律」に基づいた法定計画
・市の交通施策を進める上での基本的事項や方向を示す分野別計画

計画期間

2018年度(平成30年度)から2027年度(平成39年度)までの10年間(中間年次に必要に応じて見直し)

地域公共交通の課題

【課題1】人口減少や都市構造の変化に対応し、将来にわたって公共交通ネットワークを持続させる必要があります。

【課題2】気軽に利用したいと思われる公共交通サービスを提供する必要があります。

【課題3】市民の移動を支え、まちの魅力を支える公共交通を、みんなで守っていく必要があります。

「コンパクト・プラス・ネットワーク」の都市づくりに向け

〈基本理念〉 ひと・まち・くらしをつなぎ、にぎわいを支え続ける公共交通ネットワーク

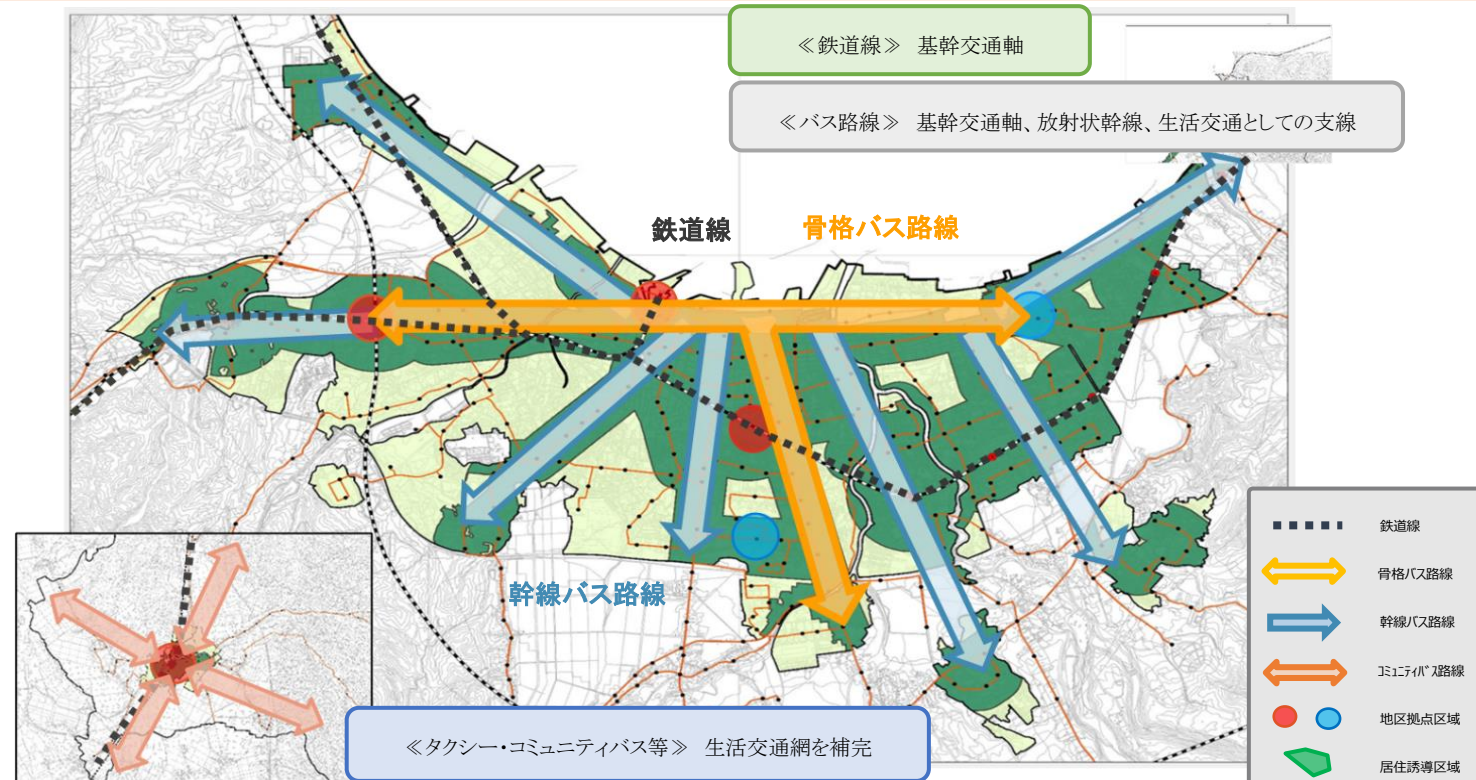
公共交通ネットワークの考え方

都市づくりと連携しつつ、交通結節点における交通モード間の連携を強化することで、公共交通機関相互が連続して機能し、面的に、効果的に結ばれた公共交通ネットワークを形成

都市内交通ネットワーク

鉄道線や国道4号・7号・103号等をT型に運行するバス路線及び放射状に運行するバス路線について、それぞれの機能・役割を最大限に活かしながら、循環路線も活用しつつ、地区拠点や都市構造に沿った幹線的な公共交通軸を強化した公共交通ネットワークを形成

郊外部については、地域特性や利用状況等を踏まえ、現行のバス路線のほか、多様な公共交通の組み合わせなどによって、将来にわたって日常の暮らしを支える移動機会を確保



広域交通ネットワーク

広域交流の拠点となる青森空港・新青森駅・青森港が立地し、国内外とつながる広域交通の要衝となっており、広域交通拠点へのアクセス性を強化した広域交通ネットワークを形成

基本方向

1 都市構造や社会環境の変化に対応した公共交通ネットワークの形成

地区拠点や都市構造に沿った幹線的な公共交通軸を強化しつつ、多様な交通モードを結節することで、将来にわたって持続可能な公共交通ネットワークを形成します。

(1) 公共交通軸の強化

《取組》バス路線を骨格線・幹線・支線に区分し、それぞれの役割を整理

(2) 交通結節機能の強化

《取組》青森駅西口駅前広場・自由通路の整備及びバス・タクシー乗り場等の見直し

(3) バス路線の段階的な再編

《取組》バス路線・系統の見直し、バスの新興住宅街への乗り入れや乗継便の運行など実証実験の積極的な活用

(4) 交通モードの組み合わせ

《取組》鉄道駅周辺の市有地や市営バス営業所を活用したパーク&ライドの検討

2 わかりやすく、利用しやすい公共交通サービスの提供

利便性や質の向上を図り、誰もがわかりやすく、利用しやすい公共交通サービスを提供します。

(1) サービスの向上

《取組》冬期バスダイヤの導入やバス専用・優先レーンの遵守など定時性の確保、バス待合所の整備など待合環境の向上、輸送サービスの充実促進など鉄道線の充実、青森駅のバリアフリー化促進や低床バスの導入促進

(2) 情報提供・案内の充実

《取組》ICTを活用した情報提供の充実検討、わかりやすいバス路線・系統への見直し

3 多様な主体と連携し、まちのにぎわいを後押しする公共交通環境の構築

地区拠点へのアクセスや観光振興などまちづくりと連携した取組を進めます。交通事業者・行政・市民が連携し、地域社会全体で公共交通を支えていく環境の構築を目指します。

(1) まちづくりとの連携

《取組》青森市立地適正化計画に定める土地利用との連携、観光振興など他施策との連携

(2) 域内外の交流の推進

《取組》広域交通拠点間の連絡性向上、案内情報の多言語表記などインバウンド対策の強化

(3) 多様な主体との連携

《取組》モビリティ・マネジメントの実施、交通事業者とのパートナーシップによる公共交通ネットワークの形成